

各部門別目標一覧：中長期経営計画「すみれ2030」（第1弾）2018年度～2020年度

【中計戦略委員会】

最重点目標 (KPI)	具体的目標 (数値化)
【法人本部】 I 財務体質の強化(収益力UP・資源配分のメリハリ化) II 持続可能性の強化(定員確保による収入安定) III 働き方改革と組織体質強化	■附属保育所開設事業(2020.4月～)の推進 ①教育活動資金収支差額(9.0%) ②経常収支差額(6.0%) ③積立率(84.0%) ④管理経費比率(⇒4.80%) ①学園全体の定員確保(88.0%) ②経常補助金比率(27.0%) ③教育研究経費比率(37.0%) ④予算編成・補正予算の厳格化 ①理事会・評議員会の充実 ②働き方改革(業務の見直し・時間外) ③個人評価制度の充実 ④組織体制強化(ガバナンス・規程見直し・情報公開等)
【短期大学】 I 学生本位体制：当短大で学んで良かったと思える大学へ II ブランド力強化：地域の社会的課題解決と地域から頼られる大学へ III 学長のリーダーシップカ：ガバナンスの確立と存在感ある大学へ	■50周年記念事業の推進(2020年) ①入学生満足度 ②学科満足度(50%) ③修業年限卒業率(90%) ④3つのポリシー認知度向上 ⑤学生相談解決率向上 ⑥就職率(100%) ⑦施設満足度 ①定員充足率向上 ②受験者数増加 ③入試方法別比率 ④地域社会提携と成果 ⑤広報活動の積極性 ①運営組織の合理化 ②中計の適正化 ③収支バランス強化 ④短大の知名度向上
【総務課】 I 魅力ある施設、くつろげる空間・施設づくり II 経費削減の推進 III 外部資金の獲得(補助金) IV 地域社会との連携・成果	①2号館の耐震と活用 ②施設整備委員会の充実 ③食堂・学生ホール・共有スペースの充実 ④蛍光灯のLED化(100%)完了へ ①会議資料の削減・IT活用 ②印刷費削減(前年度比△3.0%) ③各種委員会の効率化 ④会議運営の合理化 ①科研費申請数の増加(10件) ②競争的補助金獲得の推進 ①生涯学習(社会人)の機会提供 ②図書館等の大学施設の開放(地域住民)
【教務課】 I 教育内容の充実(カリキュラム・ブランド力) II 教育体制の充実(教職員意識改革) III 業務運営の改善および効率化	①導入教育・基礎教育・教養教育の充実 ②専門教育の充実 ③成績評価の平準化 ①教育の質保証 ②授業担当時間数の適正化 ①事務の効率化・合理化 ②授業環境の整備 ③情報公開・IR、補助金等の有効活用
【入試広報課】 I 学生募集に係る戦略的な広報活動 II 入試方法の改善 III 高大連携の推進 IV HPの充実	①広報媒体反応数向上(20%増) ②オープンキャンパス参加者満足度向上 ③オープンキャンパス参加者増加(前年度比20%増) ④高校・会場ガイダンス参加者増加 ①学力評価方法の導入 ②入試方法の多様化(社会人・留学生対象) ③定員の適正化(高校90%・社会人5%・留学生5%) ①高大連携校数の増加(公立高校との連携締結校数) ②出前講座数の増加(+30%) ①効果的なHPの作成 ②各部門の目的別HPの作成 ③HPアクセス数の増加
【学生支援課】 I 就職率向上の戦略的指導 II 学生への包括的指導・援助 III 学生支援の充実	①就職率100%へ ②公務員合格者の増加(+10%) ③地元優良企業への就職増加(+5%) ④就職講座出席者の増加 ①学生相談体制の充実 ②地域社会との連携事業 ③人間力・常識人の育成 ④四年制大学への編入増加(+5%) ①スクールバスの導入・有効活用 ②学生の居場所づくり(ゼミ制⇒クラス制) ③学長表彰制度の導入 ④同窓会との連携強化
【高等学校】 I 入学定員の確保(安定収入化・魅力ある学校づくり) II 進学実績の向上(外部評価の向上) III 教育改革(生徒・教職員の意識改革)	■新校舎の有効活用と成果 ①入学定員の安定的確保 ②経常収支差額の黒字化 ③魅力ある学校づくり(ブランド力の向上) ①四年制大学への志望者数の増加、国公立・私立難関校への合格者増 ②大学入試制度改革への対応強化 ③基礎学力の向上 ①ディプロマポリシーの実践 ②カリキュラム(新教育課程)改革の習得 ③教員の質向上(採用問題)と教職員の人材育成
【幼稚園】 I 入園者確保(安定収入化) II 教育の質の向上策(教員の質) III 組織体質の強化(外部評価UP・組織力UP)	①3歳児の入園数増加 ②未就園児対象の子育て支援事業の充実(18回/年) ③夏季預かり保育の充実(10日間) ④2歳児の受入強化 ⑤無償化対策 ①教員の質保証と研修参加数増加 ②幼児造形研究大会の主会場化 ③教育課程の見直し ①第三者評価の充実 ②教職員研修の充実 ③業務分掌の活性化

(注記)

※各部門のロードマップ・アクションプログラムに基づき、目標が期間内に達成できるよう努力する。

※年間2回程度(予算・補正予算編成時等)、その進捗状況について検証する。

※期間内に目標が達成できない場合、第2弾・第3弾の期間にどのように対処するか、改善策を考える。

※各部門・各自の業務の改善により、効率的・効果的な業務の推進を図り、学園としての教育の質向上を最終的な目的とする。